

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2020年6月22日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.100 <保護者は、子どもたちをどう見ていたか！>

6月に入り、やっと日常が戻ってきました。ここでちょっと、学校の休校期間の子どもの様子を、保護者はどう見ていたかを振り返ってみたいと思います。

今回は、株式会社セルパワーという企業が、高校生以下の子どもを持つ母親1,105名を対象に、5月26日～27日にインターネットで行った調査を紹介します。

この調査結果から、新型コロナウイルスの影響により、高校生以下の子どもを持つ母親の3割が、「学力格差が生まれてしまうこと」に不安を感じていることが分かりました。ここが、私たちにとっては非常に重要なことです。夏の面談のキープレースは「休校期間中に、実は、学力格差が生まれていたんです！」です。「休校期間中のお子様の過ごし方が、実は今後の学校での勉強にも影響を及ぼします」です。

では、早速データを見てみましょう。

この調査の3つの質問について見ていきます。1つは「子どもの自宅学習によるストレスはあるか」です。そして、2つ目は「自宅学習での課題」という質問です。3つ目は、最後に触れます。

まず、1つ目の質問（「子どもの自宅学習によるストレスはあるか」）に対して、なんと79.1%の母親が「はい」と回答しました。6月に入り、やっとお母さんもストレスから解放されようとしています。ですから、4・5月にしっかりDTS（デイリー・テレフォン・サービス）をしていた塾は、お母さんからの評価が高くなっていると思われます。

次に「自宅学習での課題（複数回答可）」について質問した回答ですが、「自発的に勉強をしてくれない」の割合が52.7%と最も多く、次に「やる気がない」が47.9%、「勉強時間が短い」が47.9%、「勉強量が少ない」が40.7%、「教えてくれる人がいない」が33.6%、「勉強する環境が整っていない」が26.2%、「特になし」が8.2%、「その他」が2.7%という結果となりました。

お母さんは、やはり、ない物ねだりの傾向が強いです。約半数の母親が、「何も言わずとも自分から課題に取り組んでほしい」、「やる気になってほしい」、「勉強に長時間取り組んでほしい」という願望を持っているようです。お母さんの過剰な期待と子どもの実態の格差が結果としてストレスになっているようです。

それでは、最後の3つ目の質問「子どもの勉強面で不安に感じていること」についての回答を見てみましょう。「学力格差が生まれてしまうこと」が27.8%と最も多く、次いで「集中

力が続かないこと」が26.2%、「学習に遅れが出てしまうこと」が25.0%、「受験対策について」が11.5%、「成績が下がってしまうこと」6.2%、「就職する際に影響しないか」が1.5%という結果となりました。

また、これらの不安について詳しく聞いたところ、「地域ごとに休校期間が違うため、（学力や進度に）差が出てくるのではないか」、「学校再開後、勉強についていけないのではないか」、「勉強をやっている子とやっていない子の学力差ができるのではないか」、「落ち着きがなくなってしまうのではないか」、「集中力が落ちているので、以前のように学習に取り組めないのではないか」という不安の声がありました。この辺は、先にも少し触れましたが、保護者面談での夏期講習のアピールに使える部分です。

一方で、これらの「自宅学習での課題」や「勉強面で不安に感じていること」は、コロナ禍以前にもあったように思えますが、全国的な長期休校から、これらの不安がより一層表面化されてしまったのです。

保護者面談では、夏期講習での指導方針をしっかりと伝え、この塾で大丈夫だ！と思われるように、しっかりと保護者にこの夏の指導方針の説明が出来るようにしたいものです。今年の夏は、チャンスです。ぜひ、このチャンスを逃さないようにしてください。

【編集後記】

MBA セミナー 2020 第1回 6/28 大阪・7/5 福岡 残席僅か！
 講演テーマ

「これからのことを話そう～授業の未来・教室の未来・教育の未来～」
 with /アフターコロナの世の中で、私たち塾人ができることは？

新型コロナウイルスは、教育の世界も日常の世界も大きく変えてしまいました。

そして、学習塾経営も確実に変わっていきます。今回は、長いトンネルを抜けようとしている今、これからの教育のために私たち学習塾経営者がやるべき事、取り組むべき事、貢献できる事をお伝えしたいと思います。

6月28日（日）大阪 新大阪ブリックビル ランチ会談室
 7月5日（日）福岡 アクア博多

【参加費（昼食付・税別）】

一般参加…10,000円 メルマガ「塾経営の戦略・戦術エキスTRA」
 読者…7,000円

※ MBA 塾経営革新メンバーの方は特別価格でご案内します。

★詳しくはこちら★

<https://management-brain.net/mbaseminar02/>

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.64

西洋史の本に「黒死病のあとルネサンスが始まった」と書かれているのを見かけることがあります。およそ700年前、ヨーロッパでは黒死病（ペスト？）が大流行しました。犠牲者は3000万人とも4000万人とも。当時の人口のほぼ3割ないし4割が亡くなったこととなります。疫病の前には神も教皇も教会もまったくの無力——それが明らかになって、神中心の世界から人間中心の世界へと思想の転換が起こったわけですが、今般のコロナ禍のあと、われわれの世界にはどんな変化が生じるのか。暇にまかせて毎日、そんなことばかりを考えています。

もちろん、世界の枠組みやグローバル化に対する考え方を始め、生活様式から人生観まで、いろいろなことが変わっていくでしょう。

ただ、そこまで考える能力はありませんので、ここではとくに私がかかわる学習塾の世界、とりわけ急に取りざたされるようになった「オンライン指導」に限ってアタマに浮かんだことを紹介することにしましょう。

緊急事態宣言が全国に拡大された4月16日の前後にあたる14日から19日かけて、全国学習塾協会が「オンライン授業に関するアンケート調査」を行っています。

同調査によりますと、この時点でオンライン授業を

- ①既に導入している事業者 53.9%
- ②導入する予定の事業者 21.1%
- ③検討中の事業者 18.4%
- ④導入予定のない事業者 6.6%

でした。

回答者の52.6%が「1事業所」、26.3%が「2～10事業所」の事業者ですので、中堅・大手塾だけではなく中小・個人塾をも含めた4分の3の塾が「オンライン授業」を実施しているか、実施予定ということになります。

今般のコロナ禍のあともこうした「オンライン授業」、より正確な言葉を使えば「インターネット経由の遠隔指導」＝「オンライン指導」はますます盛んになっていくだろうと私は見えています。

理由は5点挙げられます。

①第2波、第3波への備え

感染症の専門家の多くが間違いなくコロナの第2波、第3波は「ある」と言っています。学校休校とそれに伴う塾の「営業自粛」への備えは当然でしょう。

②一度手にした武器は捨てない

塾とは本来、「教師が生徒を、生徒と同じ場所（生徒の自宅以外）で、同じ時間に、対面して直接指導する形態」を指します。そこに「生徒とは違う場所で、場合によっては違う時間に、直接対面せずに指導」できる新しい武器が加わったこととなります。塾がこれを捨てるわけがありません。

③小中学生全員に端末配備

ご承知のように文科省では今、躍起になって小中学生全員にネット端末を持たせようという「GIGAスクール構想」を進めています。

15歳児を対象に2018年、OECDが「1週間のうち、教室の授業でデジタル機器を使う時間」を調査したところ、日本は加盟31か国中、「国語」、「数学」、「理科」、「音楽」、「美術」の5教科で31位。一番順位が上がったのが「保健体育」で、それでも27位というありさまでした。

この結果に驚いた文科省が動き出した途端にコロナ禍が発生。目下、慌てて配備を急いでいるというのが実情ですが、今回だけは本気にならないと文科省の存在意義が疑われてしまいます。早晩、全員に配備、しかも自宅への持ち帰りもOKということになるでしょう。そうなれば、塾もまたそれを利用可能となり、塾の「オンライン指導」のネットワークでもあった「ネット環境のない塾生」はいなくなるようになります。

④子どもはオンラインに慣れている

同じOECD調査にこんな国際比較があります。「あなたは、次のことをするために学校以外の場所でデジタル機器をどのくらい利用していますか（携帯電話での利用も含む）。日本の子どもたちは「1人用ゲームで遊ぶ」「ネット上でチャットをする」で第1位でした。つまりは技術面ではオンラインに慣れていないわけではありません。配信側の工夫次第で、いつでも学習面に利用することが可能はずです。

⑤保護者のウケも悪くない

5月14日に特定警戒地域を除く37県の緊急事態宣言が解除され、多くの塾が営業を再開しています。そうした塾から聞こえてくるところによると、塾生の1割から3割が対面授業に戻ってきていないそうです。保護者が3密を嫌って登塾させないというのもちろん含まれているで

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.64

しょう。が、同時に「オンラインでやってくれるのなら、それで十分」という保護者・生徒も少なくないと言われています。「通塾のために週に何回も送迎するのは苦痛」、「かといって、交通事故などの危険も考えれば1人で通わせるのも心配」。これまでも保護者が悩んでいたことでした。想像していた以上にオンライン指導の内容が充実していれば、こうした悩みは一気に解決します。皮肉な話ですが、対面授業休業中のオンライン指導がうまくいった塾ほど、生徒が対面授業に戻ってきていないという現象が起きていると思われま。

ところで、では、オンライン指導の質が高くなれば、対面授業の必要はなくなるのでしょうか。

そうした可能性もないわけではありません。一部の生徒にはそれで十分という場合もあるでしょう。それゆえか、

すでに大手塾の中にはオンライン指導専用コースを設置したところも出てきたと聞いています。

が、かといって、私はすぐに普通の塾が、主力の事業としてオンライン専用コースを開始することはお勧めいたしません。

双方向授業であれ映像配信であれ、オンライン指導にはそれなりの人手や技術、資金、指導力が必要です。

将来はともかくいまは、対面指導と同時並行的にオンライン自習室などの軽い指導を継続しつつ、オンライン指導のメリット、デメリットを精査していく時期なのではないでしょうか。

PS・コンサルティング・システム

小林 弘典

スマートフォンから取得した位置情報でターゲットを定めて配信するWeb広告

CHALK Digital

チョーク・デジタル

無料見積受付中



折込チラシを撒くのと同じ感覚で

どこに ・通塾圏内の小・中学校エリア

いつ ・平日の通勤時間帯

だれに ・30～50代の男性・女性

と絞って広告配信できるサービスです。

広告を配信するエリア・時間・人を設定します。

エリア内で対象者がアプリを起動すると…

アプリに貴塾のバナー広告が表示されます。

